

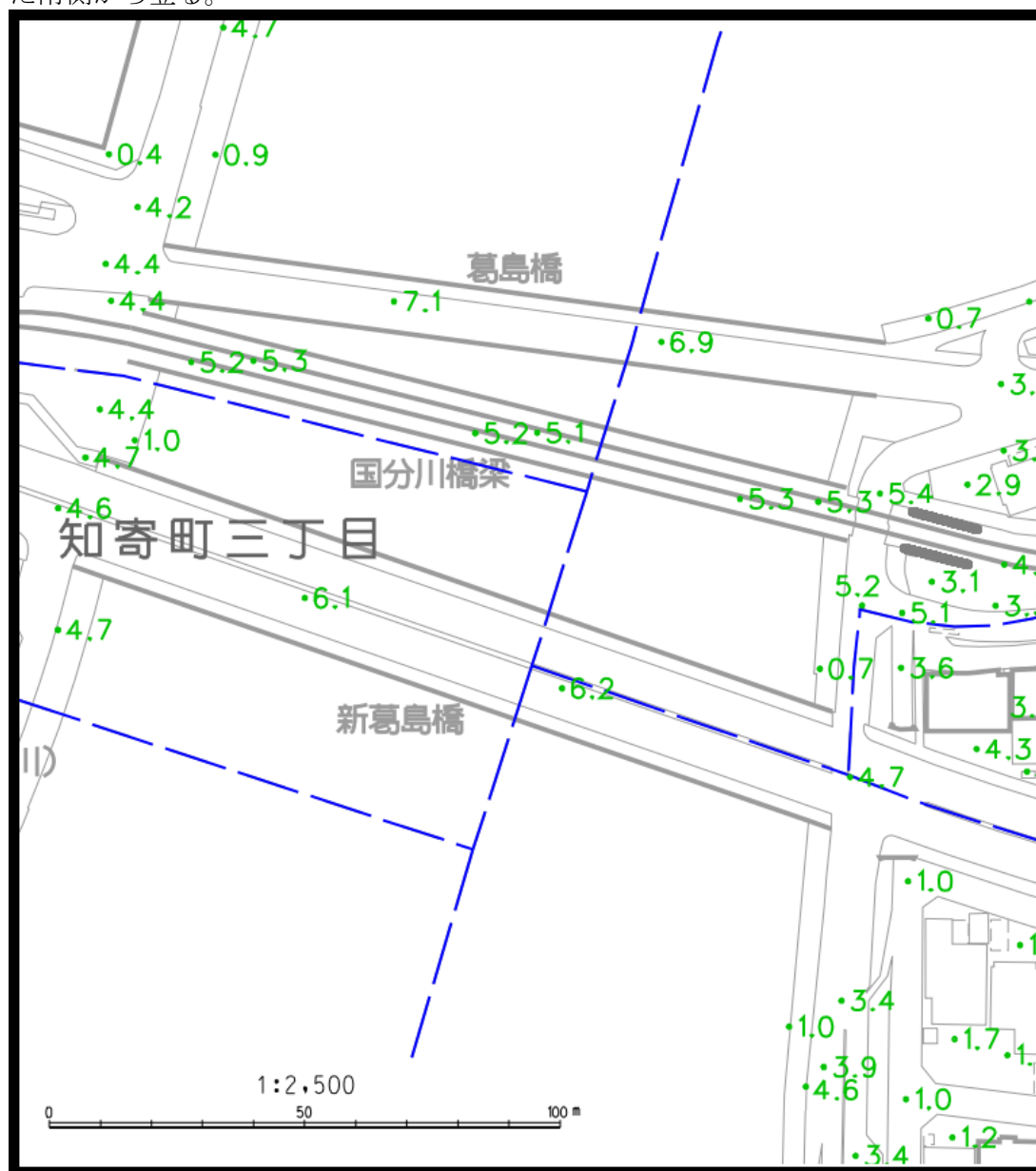
10 TE08 葛島橋東詰

葛島橋東詰電停は、とさでん交通唯一の専用軌道上の、駅っぽい電停。

電停のすぐ南には、標高 20m ほどの葛島がある。葛島は、浦戸湾七島の 1 つ。

浦戸湾七島は、①田辺島 ②大島（現 五台山） ③葛島 ④比島 ⑤洞ヶ島 ⑥竹島。7 番目の島には諸説あるが、浦戸湾内の玉島が有力。高知城のある大高坂山を推す声もある。

葛島は高岡層に属し、チャートを生ずる。山の表層の大部分はコンクリートで築（つ）かれているので、観察困難。北側の登り口は通行禁止なので、バイパスに面した南側から登る。



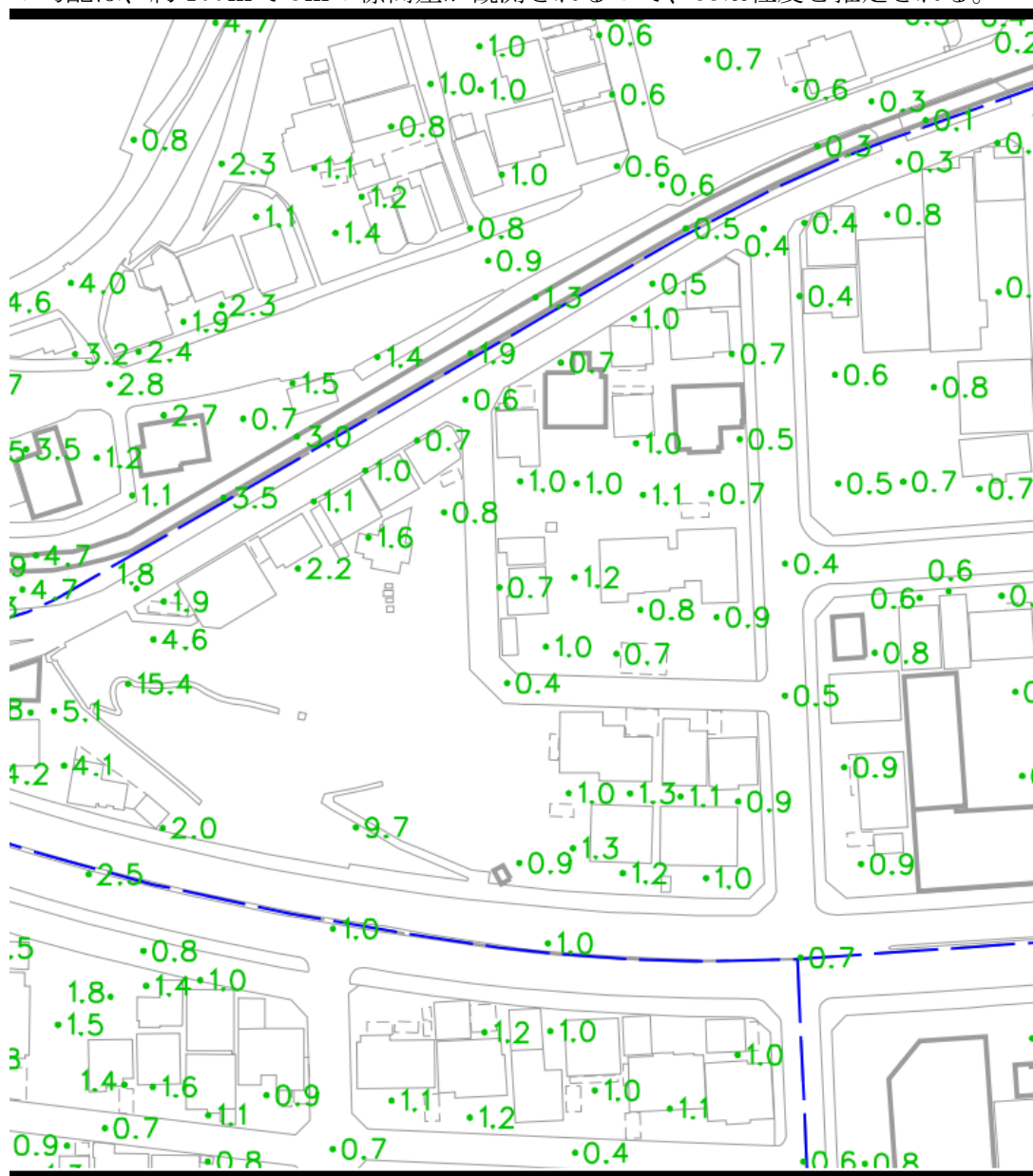
下図は、高知市ホームページに掲載された市内の標高マップである。この図から、葛島周辺の地形について考察する。

(1) 葛島の標高

葛島に三角点は設置されていない。国土地理院の2.5万分の1地形図によると、10mの等高線はあるが、20mはない。したがって、標高は10mと20mの間。しかし、標高マップの15.4mと記された地点からなお数mの登りが観察されることから、かなり20mに近いと推測される。

(2) 電停から東に約100m伸びる専用軌道の勾配

軌道の勾配は、水平距離1,000mに対し、何m上ったかで表される。これを千分率(パーミル(‰))という。碓氷峠を通る信越本線は北陸新幹線開業により廃止されたが、その勾配は66.7‰と、JRグループ最大であった。その他の急勾配は、33.3‰や25‰が多い。これらは分数ではそれぞれ、1/15、1/30、1/40となる。葛島の勾配は、約100mで3mの標高差が観測されるので、33‰程度と推定される。



(3) 旧線観察

電停を過ぎると、電車は国分川橋梁を渡る。この橋は鉄道開通の 1910 年に架橋、堤防はその後建設されたため、橋梁部分が切れていた(下左写真)。

1970 年台風 10 号による高潮被害が発生、高知県は国分川高潮対策事業として防潮堤の整備に着手した。1995 年の阪神淡路大震災をきっかけに堤防の耐震性強化が図られ、鉄道橋が架け替えられることになった。

2002 年、橋の上流側に新橋が完成した。新橋は堤防をまたぐ関係で標高が 1 ～ 2 m 高くなっており、それに伴って、軌道は数 m 北に移動、標高も高くなった(移設時、乗車体験)。軌道移設後、国分川堤防の切れていた部分がコンクリートでふさがれたが、今でも色が違っているところが観察できる(下右写真)。

橋梁移設前、こんなことがあった。大津の勤務先から西行き鏡川橋行電車で帰宅途中である。土佐電鉄(当時)の運転士さんが、葛島橋東詰電停でなかなか出発せず、じっと川を見つめる。そして、意を決して発車、鉄橋を渡る。水面を見ると、台風の接近で波浪が高く、かなり荒れている様子である。運転士さんは、川面を見て、「これくらいの波なら川を渡っても支障なかろう。」と判断したものと思われる。乗っている者としたら、生きた気はしなかった。

下の写真は、旧鉄橋撤去前と撤去後を同じ角度から撮影したものである。撮影場所は国分川右岸の歩道橋。この歩道橋は、テレビ高知健康マラソン発足当時のコースである。歩道橋をマラソンランナーが渡るとは、思い切ったことをしたことである。



旧橋を渡るごめん行 803 形
1972 年撮影
25km/h 制限がかかる
見よ、この無防備を!!



旧橋撤去後
2021 年撮影
コンクリートの色の違いが分かる

11 TE03 宝永町

宝永(実際は寶永)は日本の元号の一つ。元禄の後、1704年から 1711 年までの期間。当時の徳川将軍は五代綱吉。

地名は、1707 年の宝永南海地震の際、この地まで津波が押し寄せたことから。

津波の後、平地内に堤防が築かれ、宝永堤と名づけられた。宝永町電停から南北に延びる道がそれ(右図赤線)。今でも、堤防はその東西よりも 10cm ほど高いことが観察できる。

以前は宝永堤を示す道標があったが、行方不明になっている。

右図中の紫の矢印は多賀神社。山内一豊の土佐入国の際に、近江国多賀の多賀大社から分霊。多賀大社はイザナギ・イザナミを御祭神とする滋賀県一の神社。近江鉄道でのお参りがお勧め。

古事記に記載されているイザナギとイザナミの国生み神話がまた秀逸なので、原文を載せる。会員の便を図り、句読点の入るべきところにスペースを入れる。

エロすぎるので、訳なし。



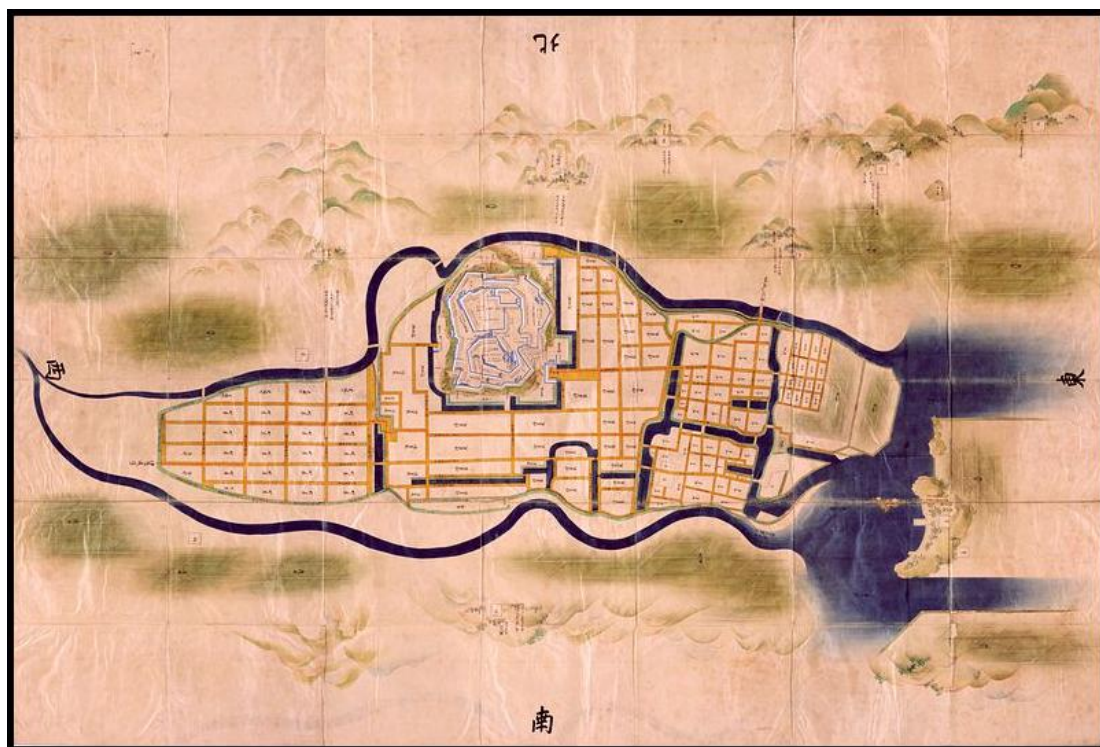
於 是 問 妹 伊 邪 那 美 命 曰 汝 身 者 如 何
成 答 白 吾 身 者 成 成 不 成 合 處 一 處 在
爾 伊 邪 那 岐 命 詔 我 身 者 成 成 而 成 余
處 一 處 在 故 以 此 吾 身 成 余 處 刺 塞 汝
身 不 成 合 處 而 以 為 生 成 國 土 生 奈
何 伊 邪 那 美 命 答 曰 然 善
爾 伊 邪 那 岐 命 詔 然 者 吾 与 汝 行 廻 逢
是 天 之 御 柱 而 為 美 斗 能 麻 呂 波 比

12 TE02 菜園場町

菜園場町は長さ 100mほどの南北の商店街。よさこい祭りの演舞場の一つ。

地名の由来は、土佐藩主の菜園所があったことから。

菜園場町交差点から西に150mほど行くと、木屋橋交差点となる。ここに木屋橋電停があった。ここは、中の島からはりまや橋に延びる堀川と江ノ口川と鏡川を結ぶ運河「横堀」が十文字に交わっていたところで、橋が4つ架けられていたことから、四ツ橋と呼ばれた。四ツ橋から北へ、江ノ口川につながる横堀は、道路の拡張工事により暗渠化されるが、その引き換えに横堀公園の一部が掘削され、新河道となる。公園は発掘調査中で、出土物多数。詳細は調査にあたった高知県埋蔵文化財センターの発表を待ちたい。



「土佐国城絵図」(1644) 絵図右が四ツ橋

菜園場町・電鉄ターミナルビル前間には、東から木屋橋・八幡通・土佐橋（それぞれ四銀前・小鳥店前・よさこい前）の3つの電停があったが、すべて廃止。

とさでん交通後免線 停留所コード一覧（南寿宏・私案）

TE01	デンテツターミナルビル前	TE09	西高須	TE17	鹿児島	TE25	小籠通
TE02	菜園場町	TE10	県立美術館通	TE18	舟戸	TE26	篠原
TE03	宝永町	TE11	高須	TE19	北浦	TE27	住吉通
TE04	知寄町一丁目	TE12	文珠通	TE20	領石通	TE28	東工業前
TE05	知寄町二丁目	TE13	介良通	TE21	清和学園前	TE29	後免西町
TE06	知寄町	TE14	新木	TE22	一条橋	TE30	後免中町
TE07	知寄町三丁目	TE15	東新木	TE23	明見橋	TE31	後免東町
TE08	葛島橋東詰	TE16	田辺島通	TE24	長崎	TE32	後免町

（後免編・完）